



2016年2月14日発行 <http://stopdam.aso3.org/>

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康 熊本市西区島崎4丁目5-13

第2回立野ダム予定地現地調査



第2回立野ダム予定地現地調査 2015.10.4

昨年10月4日、第2回立野ダム予定地現地調査を開催しました。ダム建設予定地の見学会とシンポジウムを開き、約170人が参加しました。

午前中は2つのコースに分かれ、Aコースは立野ダムの建設予定地である立野峡谷を見学しました。

まず、南阿蘇鉄道の立野橋梁近くから立野峡谷を望んだあと、長陽大橋上から北向谷原始林を見学しました。ここは国の天然記念物であり、国立公園の特別保護地区で、本来ダムなどの工作物を造ってはならない場所です。

その後、水没予定地まで歩いて下りました。黒川の対岸に、阿蘇火山から流れてきた立野溶岩が冷えて固まるときにできた角材状の割れ目（柱状節理）を間近に見ることができました。

Bコースは、黒川の改修と遊水地を見学し、ダムによらない治水のあり方を考えました。小倉遊水地は、面積88haの「地役権」を導入した遊水地です。普段は農地として活用され、50年に一度の洪水の時には遊水地となります。驚くのが、小倉遊水地は毎秒140トンの洪水調節能力があることです。これは、立野ダムの洪水調節能力（毎秒200トン）に匹敵します。立野ダムをつくり、もし効果があったと仮定しても、阿蘇には何のメリットもありません。阿蘇で遊水地をつくるなどの治水対策をとれば、阿蘇のためにも、熊本市など下流のためにもなることが分かりました。

内牧では、洪水を流れやすくするために黒川の断面積を広げ、堤防を強化するために、鋼矢板（連続した鉄骨）を堤防上端まで打ち込んだ、壊れない堤防が造られているのを見学しました。

午後からは「ダムより自然を生かした村づくりを」と題するシンポジウムを、旧立野小学校体育館をお借りして開きました。中島熙八郎・県立大名誉教授（環境学）が白紙撤回された川辺川ダム計画を挙げ、「川辺川ではダム予定地の公園化を進めている。ダム本体が着工していない立野も、工事を止めて自然資源を活用する方向に変えることはできる」と講演。ダムによらない地域づくりについて活発な意見交換が行われました。



現地調査シンポジウム(旧立野小)2015.10.4

●立野ダムをめぐる動き 2015年9月～2016年2月

- 9月23日 立野ダム問題ビラ配り（南阿蘇村、阿蘇市、大津町）
- 9月29日 報告集会「鬼怒川の堤防決壊から白川の安全と立野ダムを考える」100名参加
- 9月30日 「立野ダムより河川改修を進めることを求める要請書」と「立野ダム本体工事の早期着工要望への抗議文」を熊本県に提出（10月2日には熊本市に提出）
- 10月4日 第2回立野ダム予定地現地調査 170名参加
- 10月8日 白川第一橋梁と立野橋梁が土木学会の推奨土木遺産に選ばれたと報道。
- 10月13日 「阿蘇ジオパークに関する意見書」を、阿蘇市、南阿蘇村、高森町に提出
- 11月10日 財務省に「国営立野ダムに予算をつけないことを求める要請書」提出。
- 11月14日 大津町で立野ダム問題学習会 50名参加
- 11月26日 国交省に「立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状」を提出
- 12月24日 2016年度政府予算案で立野ダム建設事業に41億9800万円

2016年2月4日 熊本県知事選挙立候補予定者への立野ダム問題公開質問状の回答を公開
※公開質問状と回答を当会ホームページで見ることができます。

2月11日 ブックレット「阿蘇ジオパークに立野ダムはいらない」を出版

※10月24日、12月12日、1月30日に署名活動を行いました（下通り・銀座通り交差点）



報告集会「鬼怒川の堤防決壊から白川の安全と立野ダムを考える」2015.9.29



「阿蘇ジオパークに関する意見書」を、阿蘇市、南阿蘇村、高森町に提出 2015.10.13

●財務省に要請書を提出



財務省に要請書を提出 2015.11.10

11月10日、麻生太郎財務大臣宛の「国営立野ダムに予算をつけないことを求める要請書」を、九州財務局に提出しました。要請書で「国交省が開示した資料を検証しても、白川の流下能力は河川改修で大幅に向上しており、立野ダム建設は不要」と指摘。来年度以降、立野ダム事業費を認めないように求めました。

九州財務局の担当者は、「本省に送り、予算査定の検討材料にしたい」と答えましたが、残念なことに来年度政府予算案では立野ダム事業費に約42億円が計上されました。

●「洪水時、ダムが穴がふさがり危険」国交省に質問状を提出



公開質問状の提出 2015.11.26

11月26日、国交省立野ダム工事事務所に「立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状」を提出しました。

立野ダムには、下部に3つの穴（高さ5m×幅5m）があります。幅5mしかない穴が、洪水時に流木等でふさがるとは明らかです。洪水時にダムの穴がふさがると、洪水を貯め込むだけの危険な状態となり、立野ダムは洪水調節不能になります。

国土交通省は流木対策として、立野ダムの穴の上流側をスクリーン（金網）で覆うとしています。しかし、大量の流木や岩石等がひっきりなしに流れる洪水時の白川の状況を考えると、スクリーンはたちまち流木等でふさがってしまうと容易に想像できます。ところが国土交通省は、「スクリーンにはりついた流木は、ダムの水位が上昇すると浮き上がる」とホームページで主張しています。

その根拠を情報開示請求したところ、国交省は「立野ダムの模型の上流からツマヨウジなどを最大で1000本流したが、ダムの水位が上昇するとツマヨウジが浮くので穴はふさがらない」との模型実験結果を開示しました。

しかし、模型実験に使用したツマヨウジは、乾燥した木材です。洪水時に実際に川を流れる流木は、水を含み非常に重くなっています。また、流木を穴が吸い込む力は、流木の浮力よりもはるかに大きいのは明らかであり、国土交通省の主張は、あり得ないことです。

●会計報告(2014年10月1日～2015年12月31日まで)

収入の部	金額	備考
繰越金	7,950	
年会費・カンパ	860,049	
合計	867,999	

支出の部	金額	備考
郵送費、印紙代	233,491	会報発送、資料発送、情報公開
事務用品費	37,616	紙代、封筒代、プリンターインク代
会場費	52,130	集会等6回
ブックレット50冊	35,000	流域首長、議員等に送付
カラーチラシ作製配布	426,783	A4版両面印刷1枚約2円、チラシ配布
その他	78,210	講師謝礼、印刷機使用料、現地調査保険
合計	863,230	

(収入) 867,999 - (支出) 863,230 = 4,769円

●会員拡大にご協力ください！

最近の集会等にご参加いただいた皆様にも、会報12号をお送りしました。「立野ダムによらない自然と生活を守る会」は、皆様方の年会費（一口1000円）とご寄付のみで運営しております。今回、2015年度分の会費振替用紙を同封させていただきました。

会の会計もほとんど底を尽きかけています。ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。すでに今年度の会費を振り込まれた方は、会員拡大にご協力いただけると幸いです。

立野ダム問題ブックレットpart3

「阿蘇ジオパークに立野ダムはいらない」 を出版します!



立野ダムをつくってはならないことを、国交省が開示したデータや、日本全国の穴あきダムの例から考えました。また、阿蘇火山や立野峡谷の生い立ち、立野ダム建設が阿蘇・白川・有明海に与える影響、ダムによらない地域づくりについても、分かりやすくまとめました。

全国の主要書店にならび、各インターネット通信販売でも近日中に発売されます。2月27日のシンポジウムの会場でも販売します(特別価格800円)。是非ご購入いただき、お読み下さい。

編者:立野ダム問題ブックレット編集委員会ほか

出版元:花伝社 A5判88ページ 定価:864円(税込)

■通信販売について

当会で1000冊買い取りましたので、通信販売も行います。是非ご購入いただき、立野ダム問題を、あちこちに広げていただければ大変ありがたいです。

- 販売価格 1～4冊まで : 1冊860円×注文冊数+送料240円
5～14冊まで : 1冊700円×注文冊数(送料はサービスします)
15冊 : 1万円(送料はサービスします)
大口 : 5万円(70冊まで、必要冊数を引取っていただきます)

○注文方法 ハガキ、FAX、メールにてお願いします。

「阿蘇ジオパークに立野ダムはいらないを注文」と明記した上で、
冊数、ご名前、送付先、電話番号を明記してください。

郵送:〒862-0909 熊本市東区湖東2-11-15 緒方紀郎宛

FAX:096-367-9815

メール:ogt-hawks@s8.kcn-tv.ne.jp

○支払方法 本に同封します郵便払込用紙にてお願い致します。

編集後記 2月27日、穴あきダムについて詳しい国土問題研究会の中川学さんをお招きし、穴あきダムとは、そして立野ダムとは一体どのようなものかを明らかにします。是非ご参加下さい。これまでの活動や会報、国交省が開示したデータ等を当会のホームページにまとめました。是非ご覧下さい。ストップ立野ダムに向け、やるべきことが山積しています。スタッフも大募集しています。会費・カンパも何卒よろしくお願い致します。(N.O.)